

# 協力

倉敷市立味野中学校

第1学年 学年だより

No. 8 令和2年10月30日

## 実りの秋

日常の景色も変わり、校内の木々も紅葉が進み秋も深まってきました。秋は、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋と言われ、日本人は秋を楽しむことが多いように思います。果実は1年間のサイクルの中で冬の寒さを耐え忍び、春に芽を出し、夏の暑さにも負けず、秋に実をつけます。中学校3年間で私たちがどんな実をつけるのか、想像しながら待ち望んで今の時を大切に過ごしていきましょう。学習面では、日々の学習の積み重ねに差がみられるようになりました。1時間の授業でも、始まりのチャイムを大切に人ほど授業のけじめがついているように思います。休み時間と授業のけじめをつけてから授業に臨みましょう。

## 防災士に学ぶ会

防災士に学ぶ会を10月8日に体育館で行いました。当初は、校外学習として11月に神戸への震災学習に行く予定でしたが、現状では行くことができず、代替行事として「防災士に学ぶ会」を行いました。講師の太田さんは、2年前の西日本豪雨では自らも被災されながら、避難所である岡田小学校で防災士として活動し、貴重な話を聞くことができました。

- 生徒の感想 -

・テレビ等のメディアで大変なことは知っていたけど同じ県ということだけで少し他人事のように聞いていました。ですがお話を聞いて詳しく知っておくべきだと思いました。その中で特に考えさせられたことは、起こってしまうのは仕方がないが備える意識をもつということです。もし地域全体で連携の取れた防災ができていたら、被害も少なくなっていたかもしれません。そのためにも仕組みを整え、備えることよと思いました。また、自分のことばかりを考えるのではなく、思いやりの気持ちをもって生活することを考えさせられました。

・知らなかった情報ばかりで災害はいつでも起こりうることなんだと改めて実感しました。避難所は私の想像では本当に何もなくてストレスばかりたまるところだと思っていましたが、パンやお弁当の支援、炊き出し、マッサージ、環境整備、野菜不足を少しでも解消させるための健康管理、感染症対策など様々なことが行われていたのを知って想像とは違い避難者の人々の負担を少しでも減らそうという思いでこのようなことが行われていたと思います。自分の身にもいつ災害が起こるか分からないので、しっかり備えておきたいです。

・防災士の方が本当に遭遇してしまった災害。避難場所では助け合うという考えもなく、みんなが押し寄せていて、「我先に」と考え、ルールもなかったが、防災士の太田さんがルールをつくったり、避難者全員と会議をしたりして、避難所をより良くしようという考えがすごいと思った。今日の講演会で川が氾濫し、道がなくなり行動ができなくなってしまったなどいろいろ学習した。避難するときはなるべく徒歩で行く。非常用バックは常にわかりやすい所に置いておく。災害が起こる前にネットなどでどんな被害が起こるかというのを確認したほうが良いなど、しっかりと覚えて、もしも災害が起こった時に役に立てるように備えておきたいです。

